



躍進



令和8年6月22日

今、身に付けようとしているもの

校長 田口 秀行

5月29日（金）、肌寒い曇天の下で開会した体育祭は、各種目に取り組む生徒の熱量の高まりとともに晴れ間をみせることとなりました。そして、好転する空模様に応ずるかのよう、生徒は晴れやかな表情で競技に臨み、物おじすることなく自分を表現し尽くしました。天候、仲間、応援席からのあたたかな声援等、一人ひとりを取り巻く様々なものに恵まれたおかげで、生徒は充実した面持ちで特別な1日を過ごすことができました。

体育祭が終わると、地区大会や職場体験（2年）、福祉学習（1年）など様々な活動が目白押しです。

地区大会…部活動は地域展開中ですが、大会に臨む選手にとっては、社会情勢の変化にかかわらず、相手への敬意やこれまでの努力を携え、真剣勝負に挑みます。

職場体験…講師を招いたマナー講習会を経て、生徒は職業体験に臨みます。顧客や職場の方との信頼関係の築き方や仕事の厳しさなどを体験します。

福祉学習…身体能力等の面で中学生と大きく異なる「高齢者疑似体験」を通じて、思いやりや支え合いを軸とする福祉について考えます。

これらの活動を経て、中学生は何を身に付けていくのでしょうか…

戦後、文部大臣や学習院の初代院長を歴任し、教育復興に尽力した教育学者の^{あべよししげ}安部能成は「教養とは、相手の立場に同ずる必要はないが、相手の立場を理解するという、そういう知性の力である」と教えています。

体育祭や地区大会、職業体験、福祉学習等を通じて、生徒が身に付けようとしているものを考えた時、この言葉が示すように、「相手の立場を理解しようという知性」ではないかと思えてなりません。

世の中が大きく揺れ動く今日だからこそ、戦後教育を支えてきた理念に立ち戻りつつ、未来に向けた種まきをしなければならないと感じています。そして、時代を超えて育まれてきた知性を継承できるよう、尽力せねばと考えているところです。とはいうものの、「言うは易し、行ふは難し」であり、学校だけで成し遂げられないことも多々あります。

今後とも、地域・保護者の皆様からのご理解、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

先人の意思を受け継いで～緑化支援に向けた募金活動～

毎年5月に実施する緑の羽根募金。集められたお金は、国内外の森林整備などに活用されます。今年も、中郷中では校内及び日本曹達で働く皆様からご協力いただき、総額54,284円が集まりました。多くの皆様のご協力に感謝します。

ところで、中郷中学校開校の歴史をひも解くと、緑化活動とのつながりが見えてきます。

1947年5月1日、中郷中は、中郷小の裏校舎にある4教室を間借りする形で開校しました。当時は、終戦直後でしたので、釘、板、セメントなどの資材が思うように手に入りません。そのような中、当時の中郷村の松井村長は、いち早く中学校の独立校舎を建設しようと、血のにじむ努力をして驚異的な早さで学校を建設したのです。

建設時に、松井村長が訴えかけた「この苦しみを子孫に残すな！」という言葉を受け、村では中郷中学生徒に緑化思想を普及することを議会で決め、中郷中は緑化活動を推進してきました。（『中郷村史』参照）

私たちが、募金活動の意味を考えて活動することや、ふるさとの先人に想いを寄せることも「教養を身に付けること」といえるのでしょうか。



3日間、校内で募金活動を実施しました！



日曹の方からもご協力いただきました！

未来へのバトン～地域の先輩に学ぶキャリア教育講演会～

6月1日（月）、中学校体育館で、全校生徒と中郷小の5・6年生を対象に教育講演会が開かれました。

講師は、中郷区出身の陸川 章さん。バスケットの出会いから得られた考え方や人生観などを教えていただきました。驚くことに、世界的な指導者から学んだコーチングの極意は、陸川さんが幼少期にご自身のおばあちゃんから教わったものと同じでした。

勝って喜んで帰ってくれば「自慢、高慢、バカのうち！」

負けて帰ってくれば「下に何が落ちている！負けるが勝ちだわや」

陸川さんはこの教えを原点として、これまでバスケットの指導に携わってきたそうです。また、講演会后、校長室で次のように話してくれました。

「最近、中郷の仲間と同級会をやったんですよ。みんな、親を大切にしていますし、優しくて本当にいい奴ばかりなんです…」

未来へのバトンの継承は、この言葉に集約されていると感じました。



直筆サイン入書籍を寄贈していただきました！

社会に出るための準備体操 ～マナー講習会～

6月5日（金）マナー講師の奥村恵子さんをお招きし、2年生はマナー講習会を行いました。挨拶は目を合わせてする、おじぎは一瞬、動作を止めた後に顔を上げるなどの所作を学びました。

2年生は学んだことを活かして、6月30日～7月2日の3日間、近隣の各事業所等を訪問します。受け入れていただく事業所の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

